

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800068		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム青笹		
所在地	岩手県遠野市青笹町青笹11-3-11		
自己評価作成日	平成26年 10月 16日	評価結果市町村受理日	平成27年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390800068-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390800068-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年12月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居して三年ともなると、認知症が進んだり、重度化されたりする利用者様もいるが、そのたびに職員で話し合い、対応している。併設している小規模に、自由に行き来して利用者間の交流を図っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、1階が小規模多機能センター、2階がグループホームで、隣接して高齢者専用賃貸住宅が併設されている。理念にある「笑顔・笑い声の絶えない環境」が実践されており、職員の子供たちが、利用者と一緒に食事や入浴をしながら過ごす時もある。ライフサポートプランを導入し、現在実践中である。日々の暮らしとそのかかわりの中で得られた課題を把握し、これまでの暮らしと、望む暮らしが見えてきている。地域とのつながりも、少しずつではあるが形になっていると実感している。今までは、やっていただいていた事でも、やってもらえるように創意工夫しながら継続できるよう支援に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に、毎週目標を立て、皆で共有し取り組んでいる。	法人の理念とは別にグループホーム独自の理念を全職員で作り上げた。理念にしている、笑顔と笑い声のたえない環境作りと、利用者の声に耳を傾け、寄り添い、そして気遣いのできる家族のようなスタッフでいられるように心がけ、毎月の目標を立て反省を繰り返しながら職員全員で共有し、支援の継続に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度から、自治会に入会したことで地域の回覧が回ったり、施設の広報をまわしたりしている。また、小中学校や保育園の行事に参加している。	目標達成計画を立て、少しずつではあるが着実に地域住民と交流できるよう積極的に取り組んでいる。事業所を認知してもらおうよう、青笹地区7000戸に「広報あお空」の配布をした。運営推進委員に自治会長がいるので、情報を得ながら事業所として出来る事に取り組みたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の話をしたり、お互いどのような協力をしていけるのか、話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期で会議を開催し、新たに参加している委員や職員が積極的に話し合いをし、サービス向上に生かしている。	運営推進会議は、併設する小規模多機能事業所と合同で取り組んでいる。グループホームの家族代表が欠員となっている。家族から意見を頂けるよう、一人ひとりに毎月連絡をしている。	委員メンバーであるグループホーム利用者家族が欠員となっているので、早急に人選のうえ委嘱し、事業所の運営に家族の意向が反映される体制になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連絡を取り合い、相談等している。又、市主催の地域ケア会議に出席し、状況の報告や情報交換している。	市主催の研修等には、積極的に参加している。市の担当者の事業所来訪はほとんどないが、必要に応じて相談しており、全介助となった利用者の介護用品の費用負担について、相談を行った例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やミーティングで身体拘束をしないケアについて話し合い、取り組んでいる。	職場経験の少ない職員が多いので、外部、内部の勉強会はこれから実施予定である。チャイムは2か所に設置しているが、エレベーターは利用者が自由に使用できる状態である。スピーチロック等については、実例を振り返り、職員同志注意しあったり、管理者に直接相談しながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を企画し、些細な事でも虐待になる可能性があることを全職員が認識し、「しない」「させない」事を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年はまだ研修も出来ていない。又、現在対象となる方もおらず、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書類に目を通して頂きながら説明し、不明な点等は質問を受け、納得いただいてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内の玄関に意見・要望書を置き、出された際には検討会を設けている。	意見・要望書を置いているが記入されることがなく、訪問した家族との話の内容を職員が記入するようにしている。遠方の家族の来所は、お盆、正月などで、近くの方は週2~3回来所するので、その際に要望を出してもらえるようにしている。例として、トイレの臭いがきついか、トイレのエアコンカーテンが開けたままになっている等があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期の職員会議で意見を聞いたり、必要に応じて個々に聞いたり、また聞けない時は、介護リーダーを通して聞き、必要に応じて担当部会を開き、反映できるようにしている。	併設している小規模多機能事業所の利用者の送迎時に、グループホームの職員が応援することが常態化しており、職員が減り1人体制になることがあるため、パート職員の配置を要望している。法人代表者へは、管理者経由で職員の意見を伝える形となっている。	法人の代表者、グループホームの管理者が職員との話し合いを持ちながら、働く意欲の向上や、質の確保に更に反映されるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者との話し合いは、月1でしているが、現場職員を交えた意見交換は出来ていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、担当部会が月1で企画・実施している。外部研修もないように適した職員を参加させるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの職員と二ヶ月に1度、勉強会や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と会話する機会持ち、利用者が何を考え、求めているのかをキャッチできるように、スタッフは配慮しながら会話するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から、申し込み理由を把握し、家族の思いや悩みに耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所の特徴を説明し、ご本人及びご家族の必要としている支援を見極め、適したサービスなど提案したり、紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、食事準備、掃除、買い物を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、定期的には手紙をだし、普段の様子や現在の状況を報告し、また、面会時には必ずお声を掛け、ご家族の話も聞くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の愛用品・趣味・嗜好を聞き、スタッフ間で共有し、支援している。	ライフサポートプラン様式により、家族からの情報を得ながら支援に努めている。現在では併設の小規模多機能施設や高齢者専用賃貸住宅の利用者との交流が生まれ始めており、新しい馴染みの関係になりつつある。利用者の反応を見ながら新たな馴染みの人や場所との交流にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく利用者が孤立しないように、スタッフが間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、入居中の情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話をする機会を多く持ち、利用者が何を考え、求めているのかをスタッフがキャッチ出来るよう配慮しながら会話するように努め、スタッフ間で共有している。	ライフサポートプランを導入し、家族の協力も得ながら把握に努めている。伝えることが困難な方は、表情や動作により意向を汲み取り、やってみる、やってみせるなど工夫しながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞き取りしたり、日々の会話の中で把握し、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を、ライフサポート様式にしたことで、細かい事まで記入でき、情報の共有や、ケアの統一が出来るようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ライフサポートワークを実施し、必要に応じてミーティングやカンファレンスを行っている。	ライフサポートプランから、利用者の個々の記録で問題点を出し合い、日々のミーティングやカンファレンス会議で職員全員が共有しているが、これからは家族にも参加して頂き、意見、要望が盛り込まれるよう取り組みたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ミーティングを行い些細な事でも気づきとして取り上げ、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等の外出に、ご家族が同行できない時は職員が付き添い、ご家族に報告している。又、時間がかかっても、ご本人が納得して頂くまで付き添い、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店や理容店等、社会資源とのつながりを切らさないように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医に定期で受診したり、往診して頂いている。又、かかりつけ医との情報の共有にも努めている。	全員がかかりつけ医で、1か月から2か月の定期的な受診となっている。受診は、家族対応を原則としているが、職員が通院送迎を対応し医療機関で家族と合流する場合もある。訪問診療(3か所の医師の往診)を受診されている方もいる。受診報告については家族からは帰りに受けており、事業所からは、月単位で報告したり、医師からの伝言があれば連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルサイン等、体調に変化が見られた時は、看護に報告し、必要な場合は受診をするようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居中の情報を病棟に情報提供し、入院中はケアマネが定期的に訪問して、関係者と話すようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化等で、必要時期を見定め、主治医・家族と話し合い、自事業所でできる事、出来ない事を説明した上で終末期に向けた方針を共有し、支援している。	重度化した場合における(看取り)指針があり、契約時に説明をしている。利用者の身体機能の低下により医療行為が必要な場合、当事業所で出来ることは支援したい意向であり、ミーティングでも話し合っている。家族の要望があれば、看取りたいとしている。状態の急変により、看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災担当が中心となり、訓練をしたり消防署と連携し、救命の研修を行い、全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いつ、どんな災害でも対応できるように訓練をし、運営推進会議等でも地域からの協力体制ができるように話し合っている。	グループホームは2階にあり、階段は中と外階段があるが、夜間の外階段は暗いので現在ソーラー等による電気を検討中である。訓練には、運営推進委員である区長、民生委員も参加したが、「見ているだけか、手を出していいのか、指示を」との声があり、役割分担の明確化に向け、防災担当を中心に検討することとしている。	地域防災組織もあるので、連携を図り、活用しながら地域の協力体制の構築と、地域の役割分担、避難場所の確立と家族へのお知らせ等、早期に取り組まれる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傷つけない言葉がけや、思いやりのある対応をスタッフは気を付けるようにしている。	一人ひとりの個性を見極め、尊重しながら、言葉遣いや声がけにも、敬語や方言を使い分けるなど対応している。新人や、経験年数が短い職員もいるので、マナー研修に力を入れているほか、気になる言葉遣いがあった際は職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により、自分の思いを上手く表現できない方には、本人の希望通りになるような聞き方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今何をしたいのか聞いたり、無理強いする事のないように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れたクリームを購入を支援したり、外出や行事の際の化粧や、行きつけの美容院への外出の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、出来る範囲で手伝って頂いたり、メニューを決める際に、好きな食べ物を聞き作成している。	朝夕は冷凍食品を提供しているので、昼食は自立に向けた食事作りを目指しながら、利用者と一緒に野菜を切ったり、炒めたり、食器洗いや盛り付けなど、出来る事を手伝ってもらい四季を感じて頂けるよう心がけている。車いすの方も、皆と同じ椅子へ移乗し食事をしている。外食は、家族の協力のもと、一緒に年2~3回実施している。行事食、誕生会、お正月のお餅など楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録している。又、食事の形態等、工夫したり、水分の摂れない方には、ゼリー等で十分に摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けや、介助にて義歯の洗浄と消毒を行い、口腔内の清潔を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に、個々の排泄パターンを知り、定期的にさりげない声掛けをしている。	自立できている方が3名いるが、声掛けや、誘導、車いすの方(2名)など、一人ひとりに合わせた対応を心がけている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もおり、夜間起きた時には様子を見てトイレでの排泄が出来るよう支援を行っている。トイレはアコーディオンカーテンのため車いすでの開閉は困難なので、検討中である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るだけでなく、腹部のマッサージや飲食物での自然排便を促すように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい時や、入りたい時間等に入れるように支援している。	入浴は、週3回程度であり、夜に入浴される方もいる。午前、午後と分けており、自立で入浴出来る方、見守りが必要な方、全介助の方と、個々の対応に努めている。バイタルは午前中に測定し、再度確認の必要な方には、入浴前に測定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る際の室温や、明るさ等調整している。又、畳スペースにも横になれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を、お薬情報として綴り、いつでも確認できるようにしている。又、下剤は便の状態を確認し、調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備・掃除・洗濯等、役割として手伝って頂いている。又、自宅でしていたことなど、継続して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参り・自宅・スーパー等、ご家族の協力を頂きながら外出できるように支援している。	家族の協力を得ながら、利用者と一緒に買い物や、病院受診後に外食したり、ドライブに出かけている。リフト車があるので、車いすの方も含め、皆でお花見やバラ園への外出、中学校の校庭を借りて弁当持参しながら野外で食事するなど、四季を感じてもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は置かないようにご家族にも理解して頂き、自由に使えるお金は所持してもらい、外出時に使える支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛ての手紙はご本人に渡しており、電話でも話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、装飾を変えたりしている。又、不快なおいのしないように気を付けている。	フロアは一体化となっていたので、食事どころ、なごみどころとを分けており、工夫が感じられた。廊下の壁には、各種行事の様子を撮影した写真が飾られ、笑顔いっぱい映っていた。また、観葉植物や、クリスマスツリーも置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に配慮した配置にしている。又、畳、ソファ等を利用し、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの少ない方もいるが、なじみの家具等を使用し、本人の居心地の良いお部屋にしている。	居室には電動式ベッド・エアコン・クローゼットが設備されている。位牌、テレビ(2名)、衣装ケース、椅子、テーブル、冷蔵庫(2名)、布団、鏡台など自由に持ち込まれ、その人らしい居室作りがなされており、居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクばかりにとらわれず、出来る事・出来ない事を見極めて、安全に自立した生活ができるように工夫している。		